

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)
進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

江府町産”新甘泉”の初収穫

8月27日、せせらぎ公園近くの銀杏(いちよう)の段のほ場で、江府町産の新甘泉(しんかんせん)の収穫式が開催されました。来賓として出席いただいた鳥取県西部農業協同組合の大塚博幸代表理事常務、鳥取県西部総合事務所日野振興センターの越智浩明所長様からご挨拶をいただきました。現地には、町議会議員や関係者の皆さん、そして、一般の町民の皆さんも多数足を運んでいただきました。また、マスコミも多くの方が取材に来られていました。これも日野郡で初めて栽培される梨が見事に収穫を迎え、江府町の新たな特産品が生まれるという期待感から来たものではないかと感じています。新甘泉栽培は、奥大山農業公社にお願ひしていましたが、その中でも地域おこし協力隊の藤井聖子さん、梅木琴未さんが中心

になって、鳥取県西部農業改良普及所の杉島普及員さんの指導のもと、苦勞しながらここまでやり遂げてくれました。すでにお二人とも地域おこし協力隊は辞めておられますが、藤井さんは自分が手塩

に育てた新甘泉を見るため、そして、お世話になった人にご挨拶をするため、わざわざ京都から来てくださいました。多くの町民さんには直接藤井さんの声をお伝えすることができませんでしたが、当日の式典に参加された皆さんには、藤井さん手作りの「初心者ながらの180本の梨栽培」という手書きの栽培記録が配布されたので、何かを感じられた方も多かったのではないのでしょうか。今後は、この新甘泉が広く町内に普及するよう努めたいと思います。

(江府町産新甘泉収穫式の様子はP20をご覧ください)



▲手書きの栽培記録

「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム活動報告

「親しみやすい庁舎をみんなで作えよう」役場庁舎を使って、町を楽しくするには。昨年度のプロジェクトチーム公開会議では、このテーマでワークショップを開催、新庁舎は、町民のみなさんにとって、またそこで働く職員にとつてどうあるべきか、を話し合いました。改めて「なぜ、このテーマに取り組んだか」を振り返ってみると、町のシンボルである庁舎建設を機に、町のみなさんと一緒に暮らしやすい江府町づくりについて考えてみようという強い思いがありました。そこに、役場の業務を見直し、心身ともに快適に働ける職場づくりという職員の間でも取り入れ、機能面だけでなく、仕事や心意気も「最先端」の役場を目指す!

こうして回を重ねたワークショップは、毎回、とても白熱した議論が繰り広げられ、まとまったアイデアを議会の場で提案させていただけでなく、柔軟な発想のもと、できるだけ多くの方の思いをお聴きし、何か一つでも形になれば、との目標を掲げた私たちの取り組みは、役場職員だけでなく考えたのであればたどり着けなかったであろう着眼点をもたら

したという意味では、大きな成果があったと思います。

今、新庁舎建設事業は、担当課のもとで設計作業が進められています。プロジェクトチームは、昨年度のまとめの中で、設計書案を町民のみなさんと共有し、ご意見をいただく機会を設けることを提案しており、このたび、月一回行われている『町長と町のみなさんとの意見交換会』と共催で次のとおり公開会議を予定しています。

■とき 9月22日(土) 午後1時30分から

■ところ 防災・情報センター

今回の、庁舎建設という大事業は、単に老朽化した建物を新しくするだけのものではありません。既存の公共施設のあり方や、新庁舎を含めた公共交通など、江府町の未来を考えるきっかけとしていかなくはならないものです。高齢化や人口減少の問題を前に、何を残し、何を活かすのか、健康で文化的な生活を持続するためにどうすべきか。みんなが知恵を出し合つて、ピンチをチャンスに! 私たちはそういう機会を、さまざまな場面で提供していきたいと思

動画で町報こうふ!



以前の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。